

令和 7 年度 第 1 回宇治市早期療育ネットワーク会議 会議録（要旨）

I 会議の概要

1 件名 令和 7 年度第 1 回宇治市早期療育ネットワーク会議

2 日時 令和 7 年 6 月 12 日（木）14 時 30 分～16 時 10 分

3 場所 宇治市役所 庁舎 8 階 大会議室

4 出席者

委員 小山委員（宇治久世医師会小児科医師）
海老原委員（宇治福祉園） 大野委員（かおり之園）
亀口委員（NPO 法人アジュール舎） 荒田委員（あゆみ園）
正垣委員（おかめいんこ） 中村委員（こども発達支援センター）
金川委員（山城北保健所）

事務局 雲丹亀（福祉こども部副部長）、松井（福祉こども部副部長）
佐藤（障害福祉課長）、山田（こども福祉課副課長）、岸（保育支援課副課長）
安留（学校教育課長）、栗田（保健推進課長）、畑下（保健推進課副課長）
発達支援係（平、橋本、岡田、小田川、春田、小倉、岡）

5 欠席 服部委員（京都府立大学） 藤林委員（宇治児童相談所）

6 傍聴 3 名（一般 2 名、報道関係 1 名）

7 議事 （1）委員・事務局紹介
（2）委員長選出
（3）昨年度の活動報告
（4）就学前の発達支援の現状
（5）各機関の早期療育にかかわる取り組み報告
（6）関係課の取り組み報告
（7）今年度の活動計画

Ⅱ 会議結果・議事要旨

＜開会あいさつ（福祉こども部副部長）＞

- ・令和 7 年 4 月から乳幼児教育・保育支援センターを開設した。
- ・令和 7 年度から 5 歳児健診を新たに開始した。健診後の支援については、保健・医療・福祉・教育の各分野が連携し、地域全体でフォローアップできるよう体制の整備が求められている。
- ・このような状況をふまえて、宇治市早期療育ネットワーク会議では、早期療育にかかわる課題の解決、子どもたちや保護者への支援の充実のため、ご意見をいただきたい。

（１）委員・事務局紹介

司会の栗田課長より、委員紹介、事務局紹介を行った。

（２）委員長選出

委員長の推薦を募ったところ、委員より、継続して服部委員に委員長をお願いしたいという発言があり、委員長は服部委員となった。

服部委員長の意向により、委員長職務代理者は小山委員となった。

（３）昨年度の活動報告

事務局より資料①にもとづき、昨年度の活動報告を行った。

（４）就学前の発達支援の現状

事務局より資料②－１、資料②－２、資料②－３、資料③について報告を行った。

＜質疑応答＞

委員：年中児健診の後のフォローアップが始まることで、予想されるのが、年長になってからの療育の受け入れである。年長からだとは他の保護者との温度差があると考えられる。就学前の枠を確保しておいたほうがよいのかどうか。言いっぱなしになってしまっているといけない。協力できるところはしたいと考えている。

事務局：これから 5 歳児健診の保護者向けの調査票を回収し、園の訪問を行うことで、支援が必要なお子さんが出てくる可能性がある。二次健診を行って対象児童をしぼり、その子にあった支援の仕方を考えていくことになる。その場合、保健推進課のフォロー教室がいいのか、療育をご紹介するのがいいのか、検討する必要がある。今後、状況を判断しながら、場合によっては療育への受け入れをお願いすることもあるかと思う。その場合はご相談させていただきながら進めていきたいと考えている。

委員：今の事務局の発言に補足させていただく。私自身が園医をしている園で、実際に二次健診相当の健診をさせてもらったが、スクリーニングにひっかかる子はいなかった。気になる点がある子はいたが、カットオフ値を超える子はおらず、園での対応をお願いするようなケースのみだった。構音が不完全なお子さんはおられたが、すぐに療育につなぐ必要があるようなお子さんはいなかった。園によって状況は異なると思うが、思いのほか園での対応をお願いするようなケースが多かった。そのため、療育の先生からアドバイスをもらえるとよいかなと思う。

委員：今のお話の対象と健診の内容は？

委員：普通の園の健診で、年中児だけ5歳児健診の項目を実施した。項目は、東京方式のことばのやりとりや動作模倣、しりとりなどを行うもの。園医をしている園なので、保護者への説明も行い、了承いただいていた。宇治市のやり方とは異なる。

委員：これまでも、できるだけ早期に療育につないでいただきたいと言っていたが、かつて年長から受け入れたケースもあった。うちの場合は途中でやめられるばかりだった。やめられる理由は、保護者さんがこれまで通っておられた保護者さんと会話がかみ合わず、就学に向けた話にもとまどってしまったからだ。そういう意味では、できるだけ年中までに療育につないでいただき、同時に、子どもだけでなく保護者のフォローをしていくことが重要なのではないかなと思う。5歳児健診であがってきたお子さんをすぐ療育につなぐというわけではないと考えてよいか。

事務局：5歳児健診は多職種でお子さんを見て判断していく、という流れになる。保護者にどのようにお話していくかは一定の課題であると考えている。

委員：5歳児健診は今年から始まったということで、情報を共有しながら進めてもらいたいと思う。

委員：5歳児健診という名前もややこしいと思う。5歳の健診、ということだとは思いますが、5歳「児」が入っているのは大きいところで決まったのだろうと受け止めている。年中児は4歳児と呼んでいる。年中児健診では、集団における立ち振る舞いを評価する、と書かれているが、集団の中での評価というのは難しさがあると思う。園によっては方針が異なることもあると思うが、集団への入りにくさがみられた場合に個人に原因を還元しても解決しないことがある。個人に対してだけでなく、集団に対してどのようにフォローするのか、ということも大事になると思う。インクルーシブという点でもどのように考えるのか。

事務局：5歳児健診の主旨の一つに、学校につなげていくという点も含まれている。学校の先生とも連携しながら進めていきたいと考えている。

委員：今、学校に行きにくい子どもたちも増えている。集団に合わせることも大事

かも知れないが、その子の特徴に合わせて集団がどのように迎えるか、という点も大事なのではないかと考えている。

事務局：教育委員会としても 5 歳児健診の二次健診には就学相談の担当の職員が入ることになる。就学相談につなげていく中で、集団の視点も含めて対応するようにしたいと考えている。

委員：教育との接続は本当に重要だと思う。保護者が学校に対して安心感を感じられることが本当に大切で、保護者が不安になると子どもも不安になる。5 歳児健診を成功させる鍵は保護者対応にある。

(5) 各機関の早期療育にかかわる取り組み報告

委員より、資料④の順に資料の内容が報告された。

欠席委員の資料については各自で確認した。

<質疑応答>

特になし

(6) 関係課の取り組み報告

事務局より、関係課の取り組みについて資料⑤にもとづき報告した。

<質疑応答>

特になし

(7) 今年度の活動計画

事務局より資料⑥の研修計画について報告した。

<質疑応答>

特になし

Ⅲ その他

委員より、関係課の職員が委員ではなくなったことで、発言者の名前が資料になく、問い合わせ先などがわかりにくい、という意見が出され、今後は事務局の報告者の名前も座席表に記載することとした。

Ⅳ 閉会

第 2 回会議については日程が決まり次第ご連絡する。